

いろいろどり ～鈴鹿の植木～

市内西部地域には、赤・白・ピンクなどの色とりどりの花々、きれいに枝葉が整えられた木々が並ぶ植木畑が至るところで見られます。そう、鈴鹿は全国有数の植木の生産地。今回の特集では、鈴鹿が誇る植木生産に取り組む生産者にスポットを当てます。



無

機質なコンクリートの街に彩りを与える街路樹。景観をつくり、その根で崩落を防ぐ道路法面の樹木。日陰を作り、強い日差しから利用者を守ってくれる公園の木々…。これらの公共緑化などでよく使用されるのが鈴鹿の植木です。

また、公共緑化だけでなく家庭向けの植木の生産も盛ん。生垣などで使用される「トキワマンサク」「レッドロビン」、マイホームのシンボルツリーとして人気が高い「オリーブ」

などが生産されています。

特に、「サツキ」「ツツジ」の出荷量は、なんと鈴鹿を含む三重県が全国一位(平成30年度花木等生産状況調査、農林水産省)。「黒ぼく」と呼ばれる有機質を多く含み排水性に優れた土地の特性を生かして、上質な植木を生産することで、消費者から選ばれ続けてきました。

植木の一大産地といえる鈴鹿市。これからも消費者から選ばれ続けるために、工夫を重ねながら、生産が続けられます。



「たちが作ってま〜す！」

鈴鹿の特産品「サツキ」「ツツジ」をアピールする生産者の皆さん

その歴史150年！鈴鹿の植木生産

今から約150年前の明治初期、尾張（愛知県）から移住した人たちの手で始められたとされる鈴鹿の植木。生産に適した土地であったことから、徐々に地域の地場産業として広まってきました。

第二次世界大戦により一時衰退したものの、戦後にサツキの大量生産が始まったことにより復興。1964年の東京オリンピックを契機にサツキ・ツツジの植栽が人気となり、鈴鹿の植木が一気に広まりました。

現在はサツキ・ツツジだけでなく多種多様な樹種が生産され、全国各地へと出荷されています。

次代ヘトライ！スクラムを組む生産者

代々家業として生産されてきた植木。個人事業の様相が強い産業ですが、肥料、農薬、生産方法などの新たな技術の導入、緑化の普及啓発には、生産者同士の協力が不可欠です。現在、農事組合法人鈴鹿植木組合がその役割を担い、良質で時代のニーズに合った植木の生産につなげるべく、活動しています。

また、若手生産者で構成する「みのり会」や生産者による研究会である「三重コンテナ栽培研究会」でも、活発な取り組みが行われています。

注目！鈴鹿の若手生産者

祖父の代から続けている植木生産を自分の代でつづすわけにはいかないと、2年前に家業に就きました。将来的には、主に生産しているタマリユウ以外の樹種にも挑戦して、生産規模を拡大したいです。



わたなべ ゆうたろう
渡邊 優太郎さん
(渡辺農園)

自分一人で好きなものを作りたいと思い、植木生産・卸の会社を辞め、昨年7月に独立しました。植木の生産という仕事あまり知られていないので、もっと知ってもらえるように取り組みたいですね。



おやま じゅん
小山 隼さん
((有)マルサングリーン)



オタフクナンテン

マホニア
コンフューサ

レッドロビン

市内で生産される代表的な植木



シルバープリベット

トキワマンサク

タマリユウ

生産者特別対談 ～植木の今・未来～

現在、29人の組合員で活動する農事組合法人鈴鹿植木組合。他の生産地と比べて若く、個性豊かなメンバーを束ねる理事長のいぬかいひでみつ犬飼秀光さんと副理事長のきむらみつお木村光男さんに、鈴鹿の植木の今と、これからについて話し合っていました。



犬飼秀光さん

鈴鹿植木組合 理事長

木村光男さん

鈴鹿植木組合 副理事長

— 生産する植木について教えてください。

犬飼 私は生垣の樹種を主に生産しています。トキワマンサク、シルバープリペット、コニファー類などですね。

木村 私はオタフクナンテンやアベリア類などの低木と呼ばれる樹種を生産しています。グラウンドカバーという、よく公共施設などの大きい木の下に植えられている品種ですね。

犬飼 木村くんの植木はきれいだよ。とにかく良質なものを作っていると思う。植木は生育に時間がかかるから、すぐに出荷できないけれど、高い回転率になっているよね。どれぐらいで出荷しているの？

木村 最短で1年ですね。いろいろ試行錯誤を

しながら生産しています。ビニールポットを使ったりして…。組合に入っていることで、生産者同士の情報共有は大きいと感じますね。

犬飼さんはきちょうめんな性格で、仕事が丁寧。一本一本に手間をかけられているのが分かりますよ。

犬飼 確かに手間をかけすぎて、コスト度外視になっているかもしれない(笑)。けど、植木生産で売れたらいいやという思いだけで作ってあれば、それなりのものしかできない。そう思いますよ。鈴鹿の植木が今後も選ばれ続けるためにも、上質なものを作りたいと思っていますね。みんなもそうじゃないかな。



— 鈴鹿の植木生産の特徴は？

犬飼 鈴鹿の植木は、サツキやツツジの生産がベースにあって、そこからさまざまな樹種の生産をするようになったこと。また、鈴鹿は本州の中心で流通に有利なこともあって、全国各地へ出荷されていること。特に今は公共工事で使われることが多いことが特徴かな。

木村 植木の卸をされている方に聞いたら、ユニバーサルスタジオに納品すると言っていました。いろんなところで、鈴鹿産の植木が使われていますよね。

犬飼 ディズニーランドにも使われているらしいよ。このような施設に使われるだけでなく、鈴鹿の植木も2016年からふるさと納税の返礼品として提供されるようになった。当初、食べ物にはさすがに勝てないだろう、植木を選ぶ人は少ないだろうと

思っていたけど、蓋を開けてみたら、なんとかなりの人気で。

木村 うれしい誤算でしたよね。

犬飼 このように鈴鹿の植木が選ばれることは、組合としても、いいことだと思いますね。



昭和47年7月生まれ
平和園(石薬師町)二代目生産者
令和3年2月から理事長

— 鈴鹿の生産者は若手が多いと聞きました。

犬飼 今、組合で活動している者の平均年齢は40歳ぐらいかな。他の生産地の人と話す機会があると、すごくびっくりされる。

木村 今年27歳と32歳の二人が入ってくれたし、さらに若返った。

犬飼 若手は、刺激を与えてくれるよね。失敗が隣り合わせの新たな樹種への挑戦を

したりしている。もしかすると、新たな鈴鹿の植木の強みにつながるかもしれない。

木村 そう思いますね。そんな若手を含めて、犬飼さんはすごくまとめてくれていますよ。ふざけてくれるときはふざけてくれる。すごく気さくで、若手の生産者も親しみやすいと思いますよ。

犬飼 あまり意識はしていないけど。もしあるとすると、組合の伝統かな。今までよくしてもらってきた。本当に組合員の団結は強いと思う。今はコロナでできないけど、飲み会は団結を高めるいい席になっていたしね。



昭和50年7月生まれ
松寿園(石薬師町)三代目生産者
令和3年2月から副理事長

次ページへ続く

—新型コロナの影響で2年連続で植木まつりが中止になりました。

犬飼 組合のメンバー全員が残念に思っていますね。確か10年前ぐらいからかな、植木まつりが今の9日間の開催になったのは。植木まつりのおかげで、私たちも消費者の方と接する機会ができた。植木を作っていると、消費者のことを見ずに自分本位になってしまう。だから、このイベントで私たちの植木づくりへの意識が変わったことは間違いない。

木村 毎年来てくれる方って顔を覚えるんですよ。以前に購入された方が、「こんなに大きく育ちましたよ」と言って、写真を見せてくれることがある。うれしいですね。

犬飼 リピーターの方はうれしいよね。組合のみんなも消費者の方に喜んでもらえる樹種を生産するきっかけになっているんじゃないかな。

木村 来年は開催して、皆さんの喜ぶ顔が見たいですよ。



▲ 植木まつり開催中は多くの人で賑わう



—これからも鈴鹿が植木の産地であり続けるために

犬飼 今、若手が入ってきているけど、生産者自体は減ってきていると思う。みんなが家業としてやっているからね。新たに参入しにくい分野なのが課題だと思っている。また、これからは公共工事などの需要も減ってくると思う。だから、今までどおりの生産ではダメで、個人に目を向けないと。

木村 それは言えますね。いいものを作ることが大前提で、消費者や施設の設計士の方などと交流して、アンテナを張って生産することが大切だと思いますよ。

犬飼 市民の皆さんにも、鈴鹿が植木の生産地だと知ってもらって、家庭でも植木を使ってほしいな。

木村 そうですね。緑あふれる街になってほしいと思いますよ。そのためにも、管理が難しいという概念を払拭しないと。

犬飼 そう思われているけど、管理が簡単な樹種もある。それを伝えていきたいよね。

木村 ぜひ伝えましょう。

恩田さんが「日本農業賞」大賞受賞！

椿一宮町で植木や茶などを生産する恩田さん。さまざまな工夫を取り入れたポット生産技術の確立や生産流通の効率化、消費者ニーズに対応した品種開発、地域の後継者育成などが評価され、「第50回日本農業賞」大賞を受賞しました。

日本農業賞は、農業分野の格式の高い賞の一つで、経営・技術に優れ、地域社会の支持と共感を得ている農業経営者などに贈られます。

これからも後継者育成や技術開発を続けていきます。



おんだ ひろみ
恩田 浩美さん

たまさぶろうの ワンポイントアドバイス!

植え方 育て方

おいらは植木PRキャラクターの「たまさぶろう」。植木のことなら、お任せあれ。植木は3つのポイントを押さえておけば大丈夫さ。

さあみんな、おいらの仲間を育ててくれよな!



ポイント① 適した時期に 植えよう!



すくすく成長させるためにも、樹種に応じた適切な時期に植えよう。
 落葉樹：早春から新芽が出る前（3月ごろ）までの期間
 常緑樹：新芽が出る春ごろ、または新芽が固まった梅雨ごろ
 針葉樹：新芽が出る前の春ごろ

ポイント② たっぷりの水を あげよう!



植え付けたら、水をたっぷり
と地中に染み込むまであげよう。
 特に植え付けた年の夏場の
水切れには、注意してね。
 鉢植えの場合は、鉢底から水が
流れ出るくらいあげるといいよ。

ポイント③ せんてい 剪定をしっかり してあげよう!



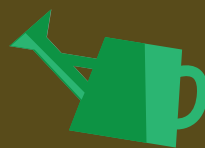
植木にとって怖いのは、
病害虫なんだ。病害虫を
防ぐ一番の方法は剪定で、
日当たりや風通しがよくなって
元気になるし、成長もするよ。

植木や庭の体験スポット誕生!

気軽に散歩しながら植木や庭を楽しみ、笑顔になってもらおうと、山本町に「Green&Smileさんぽ道」が5月4日にグランドオープンしました。造園業者が作ったコンセプトの異なる9つの庭を無料で見学できますので、植木活用の参考にしてみてはいかがでしょうか。

とき 9時～16時（年中無休）
 ところ 山本町字古池沢151-9
 問合せ ☎ 371-0610（株沖植物園）

アクセスMAP



今回の特集に関するご意見・ご感想は農林水産課
 ☎ 382-9017 ☎ 382-7610 ✉ norin@city.suzuka.lg.jp